

「月経異常・不妊症などに対する鍼灸処方の検討」—温経湯の処方を参考に—

中医鍼灸 越智東洋はり院 越智富夫

今回、婦人科疾患(衝任病)の月経異常と不妊症の代表的な三つの鍼灸処方を紹介する。今回取り上げた三つの処方は漢方薬の温経湯の弁証論治を参考にしたものである。温経湯の効果を鍼灸治療で発揮するという「鍼薬同効」を考えるといくつかの鍼灸処方を導き出すことができる。病院病機の段階ごとに鍼灸処方を分けて対応することで、より細やかな治療が可能になると考えている。西洋医学では「病名治療」、東洋医学では「随証治療」が治療上の特徴であり、「随証治療」は「同病異治」「異病同治」という西洋医学とは異なる治療が可能となる。

今回取り上げた温経湯は、冷えと血行不良と血虚に効く処方である。婦人科疾患の多くは、この3つのどれかと関係があるので、婦人科疾患に広く使いやすい処方といえる。特に冷えと血行不良と血虚の3つ全部を抱える患者には、鋭い効き目を発揮する守備範囲の広い処方なので、漢方の初心者でも使いやすいが、証を的確に見極めることができればシャープな切れ味を発揮する処方とされている。

私は、鍼灸処方を考える時、適用する漢方薬の治効機序などを参考にして鍼灸処方を組み立てている。今回のテーマの月経異常や不妊症に対しては、温経湯が適用とされるケースは多いと考えている。この温経湯の西洋医学的な治効機序は図2で、月経周期における子宮の変化については図1で示しているので参考にさせていただきたい。

婦人科疾患の治療は、先ず月経周期の状態を確認することから始めるべきである。女性は月経があることから血虚を招きやすい。臨床においては血虚が冷えを引き起こすということを常に考慮して処方を組み立てなければならない。西洋医学と東洋医学の月経の仕組みを正しく理解することで、よりの確な鍼灸処方を組み立てることができるのである。

(1) 温経湯

温経湯は、「衝任虚寒、血瘀血虚」証を改善する処方である。下記に温経湯についてまとめてみた。参考にしてほしい。臨床では上熱下寒証の中に血虚瘀血証の虚熱から発生しているタイプがよく見られる。症状も複雑なので詳細な検討が必要となる。

温経湯	
衝任虚寒証	衝任脈の機能が虚弱で寒邪に見舞われている状態：生理痛、生理が遅れる、経血量が減る、経血の色がどす黒くなる、経血中に血塊が混じるなどの生理不順、さらに無月経、不妊などの症候が現れる。骨盤内の動脈の血行が悪化している状態。 ・子宮内膜が傷つけば不正性器出血が起こる。生理が早く来たり、過多月経になる場合もある。 ・婦人科以外では、下腹部や腰の冷え、疼痛、冷痛、腹部膨満感、下痢、足の冷えが生じやすい。
血瘀血虚証	血瘀と血虚の両方を兼ね備えた状態：血瘀証は衝任虚寒のために血行が悪化して発生する。特に静脈側で血行が悪化し、うっ血を生じやすい。 ・骨盤内で卵巣や子宮の機能が失調を来しやすく、生理痛や生理の遅れ、どす黒い経血、経血中の黒っぽい血塊、不正性器出血などの症候が生じる。
血虚証	虚寒と血瘀のために栄養不良の状態：体が十分潤わないので皮膚につやがなく、唇が乾燥しやすい。目が疲れやすく、しびれ、ふらつきなどの症候も伴いやすい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・虚寒がある上に血虚なので、手足の冷え、寒がり、顔色が青白いなどの症候が表れる。 	
	<p>血瘀と血虚の両方がある状態：熱証が生じやすく、手のひらがほてる、夕方に微熱が出る、気持ちがざわざわと落ち着かない、唇が乾燥するといった症状。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下焦が冷えているので、熱証は上半身に表れやすい。 ・手掌のほてり、唇の乾燥は、この証の重要な指標である。 	

◆温経湯の症例

症例1：冷え症です。特に足先、太ももの内側、下腹部が冷えます。下半身は冷えるが、手のひらは温かい。唇は赤紫色で、乾燥しやすく皮がむける。

症例2：生理が安定せず、遅れます。経血は少量で、どす黒い色をしています。生理痛もあるが、おなかを温めると楽になる。経血には血の塊が混じる。

解説：症例1、2とも 下焦の冷え・血お・血虚の3点セットがみられる。こういう場合に温経湯を使うのである。

◆温経湯の病院病機から考えられる鍼灸処方

鍼灸処方	主治証候・随証加減・鍼灸手技	
<p>①温陽暖宮法 胞宮虚寒証 配穴処方：腎兪、命門、関元、胞門(左水道)子戸(右水道)、三陰交</p>	<p>主治証候：<u>稀発月経で数ヶ月に1回、経血量の減少、月経期間の短縮、経血は淡色で希薄。</u> 下腹部が温まらないか綿々と痛みが続き、温めたり手をあてると緩解。重症では無月経、性欲減退、長年の不妊、澄んで希薄な帯下、体の冷え、足腰がだるく力が入らない、透明な尿で尿量が増大、水様便など。舌・脈象：淡舌、薄苔、沈細脈か沈遅脈</p> <p>随証加減：帯下が長く続き希薄で量が多い ⇒ 志室と帯脈を追加</p> <p>針灸手技：いずれも鍼補法、20～30分間留針。同時に温灸。月経終了後治療開始。</p>	
<p>②温宮行瘀法 寒凝胞宮証 配穴処方：関元、归来、次髎、血海、三陰交</p>	<p>主治証候：<u>月経周期が不規則、経血がどす黒く塊が目立つ。或いは月経が突然止まり、数ヶ月起こらない。</u></p> <p>小腹部が冷えて強く痛み温めると緩解する。清冷な帯下。顔面が青く、唇が暗色。畏寒と四肢の冷え。舌・脈象：淡紫舌多瘀斑、白滑苔。沈澁脈或いは沈緊脈。</p> <p>随証加減：帯下が多く清く希薄な場合 ⇒ 脾兪と帯脈を追加</p> <p>針灸手技：関元穴：鍼温補手法。その他の諸穴：鍼瀉法、強刺激、30分間留針。腹部と仙椎部の膻穴：灸頭鍼。帯下が清冷な場合：脾兪と帯脈を追加、鍼補法、加灸。</p>	
<p>③温通衝任法 衝任阻滯証 配穴処方：関元、氣衝、血海、地機</p>	<p>主治証候：<u>稀発月経、経血量は少なく暗紅色で瘀塊が混じる。或いは突然、月経が数ヶ月止まる。</u></p> <p>少腹〔下腹部の両側もしくは小腹と同義〕の拒按性の脹痛で、温めると緩解し、瘀塊もなくなる。常に畏寒と四肢の冷えを伴う。舌・脈象：暗紫舌、あるいは辺縁や舌尖に瘀斑や瘀点がある、白滑苔、沈澁脈か沈緊脈。</p> <p>随証加減：腹痛が激しい場合 ⇒ 归来を追加</p> <p>針灸手技：処方中、関元は温補手法。その他の諸穴は鍼瀉法、30分間留針。氣衝に刺針する前に排尿させておく。</p>	

図1 月経周期における子宮の変化

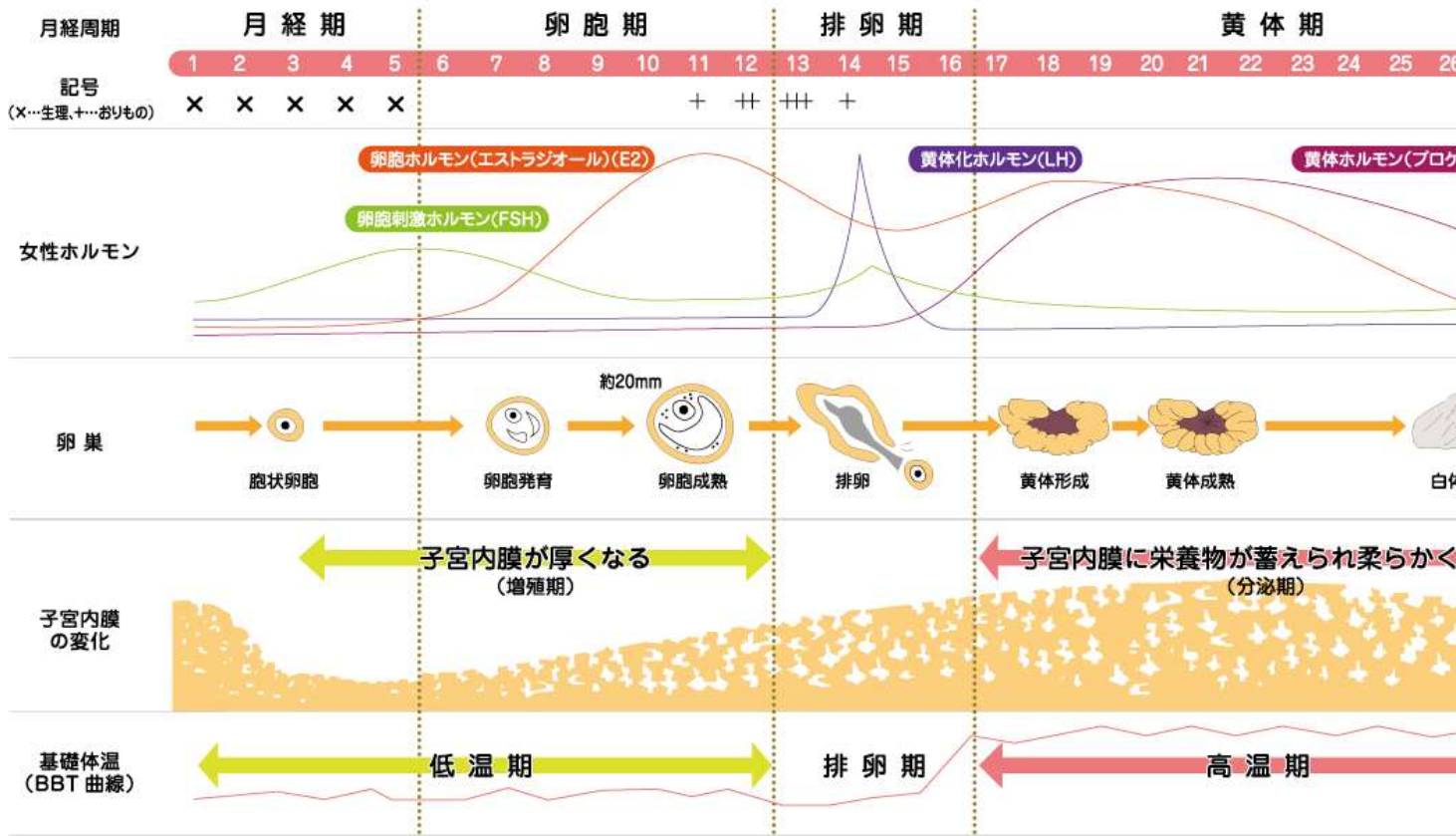


図2 温経湯の薬理

